

循環器領域におけるアカデミア創薬： 基礎研究をどう臨床に生かすか？

講師：森下 竜一 教授（大阪大学大学院医学系研究科 臨床遺伝子治療学）

日時：平成 26 年 10 月 8 日（水）17:30

場所：医学教育図書棟 3 階 第 2 講義室

Prof. Ryuichi Morishita

(Department of Clinical Gene Therapy, Graduate School of Medicine, Osaka University)

●Date: October 8th (WED) 2014, from 17:30.

●Place: Lecture room 2, Medical Education & Library Building 3F.



ゲノム解明以降、急速に分子治療が現実の医療として広がってきている。たんぱく医薬、抗体医薬は、既に実用化され、多くの恩恵を従来治療法になかった疾患にもたらしている。更に、現在次世代の分子療法として、遺伝子治療・細胞治療・再生医療・核酸医薬などが、21 世紀の医療として大きな期待が寄せられている。これらの次世代分子治療は、アカデミアにおける研究成果をトランスレーショナル・リサーチを行い、臨床応用へつなげることが期待される。

我々は、難治性皮膚潰瘍に対して、血管再生の遺伝子治療薬の開発を進めてきており、HGF 遺伝子を用いたプラセボ対照二重盲検比較試験では、虚血性潰瘍の改善率は、プラセボ群 40.0% に対し HGF 群 100.0% で非常に高い有用性を示した。現在厚生労働省から先進医療として実施を認められており、そのデータを活用した早期承認の申請の準備を進めている。更に、最近新たに抗菌作用を持つ血管新生ペプチドを発見し、フットケアへの応用を検討している。本セミナーでは、我々が実際に行っているアカデミア創薬を例にとり、どのように臨床へつなげていくかを紹介したい。

担当：病態生化学分野 山縣教授 / Prof. Yamagata (Department of Medical Biochemistry)

レポート提出先(山縣教授)：k-yamaga@kumamoto-u.ac.jp

レポート提出先/Essay(CC:医学教務/Student Affairs Sec.): iyg-igaku@jimu.kumamoto-u.ac.jp